【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の４の７第１項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成29年８月８日
【四半期会計期間】	第60期第１四半期（自　平成29年４月１日　至　平成29年６月30日）
【会社名】	Ａｓ-ｍｅエステール株式会社
【英訳名】	As-me ESTELLE CO., LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長　　丸山　雅史
【本店の所在の場所】	東京都港区虎ノ門四丁目３番１３号
【電話番号】	０３－５７７７－５１２０(代表)
【事務連絡者氏名】	取締役　　羽生　達夫
【最寄りの連絡場所】	東京都港区虎ノ門四丁目３番１３号
【電話番号】	０３－５７７７－５１２０(代表)
【事務連絡者氏名】	取締役　　羽生　達夫
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町２番１号）

第一部【企業情報】

第１【企業の概況】

１【主要な経営指標等の推移】

回次		第59期 第１四半期 連結累計期間	第60期 第１四半期 連結累計期間	第59期
会計期間		自平成28年 ４月１日 至平成28年 ６月30日	自平成29年 ４月１日 至平成29年 ６月30日	自平成28年 ４月１日 至平成29年 ３月31日
売上高	（百万円）	7,222	7,093	32,579
経常利益又は経常損失（△）	（百万円）	△453	△202	1,292
親会社株主に帰属する四半期純損失（△）又は親会社株主に帰属する当期純利益	（百万円）	△503	△299	436
四半期包括利益又は包括利益	（百万円）	△505	△305	504
純資産額	（百万円）	12,260	12,598	13,270
総資産額	（百万円）	33,715	32,877	32,992
１株当たり四半期純損失金額（△）又は当期純利益金額	（円）	△45.15	△27.05	39.14
潜在株式調整後１株当たり四半期（当期）純利益金額	（円）	-	-	-
自己資本比率	（％）	36.4	38.3	40.2

（注）１．当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
２．売上高には、消費税等は含んでおりません。
３．潜在株式調整後１株当たり四半期（当期）純利益金額については、第59期は、潜在株式が存在しないため記載しておりません。また、第59期第１四半期連結累計期間及び第60期第１四半期連結累計期間は、１株当たり四半期純損失金額であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

２【事業の内容】

当第１四半期連結累計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）が営む事業の内容について、重要な変更はありません。

第２【事業の状況】

１【事業等のリスク】

当第１四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

２【経営上の重要な契約等】

当社は、平成29年６月22日開催の取締役会において、当社が平成29年６月20日に設立した子会社を承継会社（以下、「当社子会社」といいます。）、株式会社ヴィレッジヴァンガードコーポレーション（以下、「ヴィレッジヴァンガードコーポレーション」といいます。）を分割会社として、ヴィレッジヴァンガードコーポレーションの飲食店事業及び食品販売事業（以下、「対象事業」といいます。）を吸収分割（簡易吸収分割）すること、また、分割後の対象事業に関して当社とヴィレッジヴァンガードコーポレーションが協調して運営にあたること等を内容とした契約（以下、「本契約」といいます。）の締結を決議し、同日、本契約を締結いたしました。

詳細は、「第４　経理の状況　１　四半期連結財務諸表　注記事項（重要な後発事象）」に記載のとおりであります。

３【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1)業績の状況

当第１四半期連結累計期間におけるわが国経済は、企業収益は引き続き堅調に推移し、雇用環境においても引き締まった状態が継続しており、給与所得が緩やかに伸びるなか、個人消費にも明るさが見えてまいりました。一方で、米国・欧州にける政治状況や経済政策動向に不透明感が強くあり、景気先行きについては不確実性が高い状態が続いております。

当第１四半期連結累計期間の業績は、売上高は、店舗数の減少などにより、70億93百万円（前年同期比1.8%減）となりました。営業損益は、不採算店舗の圧縮による販売費の減少に加え、売上総利益率の改善があり１億46百万円の損失（前年同期は３億70百万円の損失）となり、経常損益は、２億２百万円の損失（前年同期は４億53百万円の損失）となりました。親会社株主に帰属する四半期純損益は、２億99百万円の損失（前年同期は５億３百万円の損失）となりました。

セグメントの業績は次のとおりです。

①宝飾品

外部顧客への売上高は66億８百万円となり、セグメント損益は１億72百万円の損失となりました。

②眼鏡

外部顧客への売上高は４億84百万円となり、セグメント利益は21百万円となりました。

なお、前第１四半期連結累計期間については、「眼鏡」の全セグメントに占める割合が低く、セグメント情報に与える影響が軽微なためセグメントごとの売上高及び利益または損失について記載しておりません。

なお、当四半期における当社グループの主な店舗展開は以下のとおりです。

セグメント	宝飾品		眼鏡
会社名	Ａｓ-ｍｅエステール㈱	㈱ＢＬＯＯＭ	キンバレー㈱
前期末店舗数	357	85	50
新規出店	6	1	6
閉店	△2	△16	△1
当四半期末店舗数	361	70	55

（注）㈱ＢＬＯＯＭの店舗数には、消化仕入契約に基づく百貨店等への出店を含んでおります。

(2)財政状態

当第１四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末の329億92百万円より１億15百万円減少し、328億77百万円となりました。主な増減は、現金及び預金の増加２億87百万円と、受取手形及び売掛金の減少４億77百万円などであります。

負債合計は、前連結会計年度末の197億21百万円より５億56百万円増加し、202億78百万円となりました。主な増減は、長期借入金の増加５億97百万円、未払賞与、店舗の改装費用の支払手形などの流動負債のその他の増加４億58百万円及び１年内返済予定の長期借入金の増加１億46百万円と、法人税等の支払による未払法人税等の減少４億２百万円、賞与引当金の減少１億60百万円及び支払手形及び買掛金の減少１億16百万円などであります。

純資産合計は、前連結会計年度末の132億70百万円より６億71百万円減少し、125億98百万円となりました。主な増減は、剰余金の配当２億67百万円と親会社株主に帰属する四半期純損失２億99百万円による利益剰余金の減少５億67百万円及び自己株式の取得による増加99百万円などであります。

(3)事業上及び財務上の対処すべき課題

当第１四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(4)研究開発活動

該当事項はありません。

第３【提出会社の状況】

１【株式等の状況】

（１）【株式の総数等】

①【株式の総数】

種類	発行可能株式総数（株）
普通株式	15,000,000
計	15,000,000

②【発行済株式】

種類	第１四半期会計期間末現在発行数（株）（平成29年６月30日）	提出日現在発行数（株）（平成29年８月８日）	上場金融商品取引所名又は登録認可金融商品取引業協会名	内容
普通株式	11,459,223	11,459,223	東京証券取引所 市場第一部	単元株式数100株
計	11,459,223	11,459,223	－	－

（２）【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

（３）【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

（４）【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

（５）【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総数増減数（株）	発行済株式総数残高（株）	資本金増減額（百万円）	資本金残高（百万円）	資本準備金増減額（百万円）	資本準備金残高（百万円）
平成29年４月１日～ 平成29年６月30日	－	11,459,223	－	1,571	－	1,493

（６）【大株主の状況】

当四半期会計期間は第１四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

（７）【議決権の状況】

①【発行済株式】

平成29年６月30日現在

区分	株式数（株）	議決権の数（個）	内容
無議決権株式	－	－	－
議決権制限株式（自己株式等）	－	－	－
議決権制限株式（その他）	－	－	－
完全議決権株式（自己株式等）	(自己保有株式) 普通株式 441,800	－	－
完全議決権株式（その他）	普通株式 10,993,100	109,931	－
単元未満株式（注）	普通株式 24,323	－	－
発行済株式総数	11,459,223	－	－
総株主の議決権	－	109,931	－

（注）　「単元未満株式」の普通株式には、当社所有の株式58株が含まれております。

②【自己株式等】

平成29年６月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数（株）	他人名義所有株式数（株）	所有株式数の合計（株）	発行済株式総数に対する所有株式数の割合（%）
（自己保有株式） As-meエステール株式会社	東京都港区虎ノ門四丁目３番１３号	441,800	－	441,800	3.86
計	－	441,800		441,800	3.86

２【役員の状況】

該当事項はありません。

第４【経理の状況】

１．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

２．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の２第１項の規定に基づき、第１四半期連結会計期間（平成29年４月１日から平成29年６月30日まで）及び第１四半期連結累計期間（平成29年４月１日から平成29年６月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、爽監査法人による四半期レビューを受けております。

１【四半期連結財務諸表】

（１）【四半期連結貸借対照表】

（単位：百万円）

	前連結会計年度 (平成29年３月31日)	当第１四半期連結会計期間 (平成29年６月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	7,895	8,183
受取手形及び売掛金	2,402	1,925
商品及び製品	9,746	9,750
仕掛品	1,738	1,638
原材料及び貯蔵品	2,263	2,409
その他	479	442
貸倒引当金	△0	△0
流動資産合計	24,526	24,348
固定資産		
有形固定資産	2,434	2,443
無形固定資産	206	201
投資その他の資産		
敷金及び保証金	3,485	3,444
その他	2,341	2,440
貸倒引当金	△1	△1
投資その他の資産合計	5,825	5,884
固定資産合計	8,466	8,529
資産合計	32,992	32,877
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	4,449	4,332
1年内返済予定の長期借入金	3,476	3,622
未払法人税等	488	85
賞与引当金	397	236
その他	2,104	2,562
流動負債合計	10,916	10,840
固定負債		
長期借入金	6,463	7,061
役員退職慰労引当金	560	566
退職給付に係る負債	1,710	1,716
資産除去債務	61	84
その他	9	9
固定負債合計	8,805	9,438
負債合計	19,721	20,278

（単位：百万円）

	前連結会計年度 (平成29年３月31日)	当第１四半期連結会計期間 (平成29年６月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,571	1,571
資本剰余金	3,384	3,384
利益剰余金	8,456	7,888
自己株式	△146	△245
株主資本合計	13,265	12,599
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	48	43
為替換算調整勘定	△52	△53
退職給付に係る調整累計額	9	10
その他の包括利益累計額合計	4	△0
純資産合計	13,270	12,598
負債純資産合計	32,992	32,877

（２）【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】
【四半期連結損益計算書】
【第１四半期連結累計期間】

（単位：百万円）

	前第１四半期連結累計期間 (自　平成28年４月１日 至　平成28年６月30日)	当第１四半期連結累計期間 (自　平成29年４月１日 至　平成29年６月30日)
売上高	7,222	7,093
売上原価	2,730	2,644
売上総利益	4,491	4,449
販売費及び一般管理費	4,861	4,595
営業損失（△）	△370	△146
営業外収益		
受取利息	0	0
受取配当金	5	4
受取手数料	7	9
その他	9	10
営業外収益合計	23	23
営業外費用		
支払利息	21	14
為替差損	78	49
その他	6	16
営業外費用合計	106	80
経常損失（△）	△453	△202
特別利益		
固定資産売却益	-	2
受取補償金	8	5
特別利益合計	8	7
特別損失		
固定資産除売却損	3	-
店舗閉鎖損失	1	2
減損損失	97	95
関係会社整理損	0	-
特別損失合計	101	98
税金等調整前四半期純損失（△）	△547	△293
法人税等	△43	6
四半期純損失（△）	△503	△299
親会社株主に帰属する四半期純損失（△）	△503	△299

【四半期連結包括利益計算書】

【第１四半期連結累計期間】

（単位：百万円）

	前第１四半期連結累計期間 (自　平成28年４月１日 至　平成28年６月30日)	当第１四半期連結累計期間 (自　平成29年４月１日 至　平成29年６月30日)
四半期純損失（△）	△503	△299
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△4	△5
為替換算調整勘定	△5	△0
退職給付に係る調整額	7	1
その他の包括利益合計	△2	△5
四半期包括利益	△505	△305
（内訳）		
親会社株主に係る四半期包括利益	△505	△305
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

【注記事項】

（四半期特有の会計処理）

税金費用については、当連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税金等調整前四半期純利益又は損失に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。

ただし、当該見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合には、法定実効税率を使用する方法によっております。

（四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係）

当第１四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第１四半期連結累計期間に係る減価償却費（のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。）及びのれんの償却額は、次のとおりです。

	前第１四半期連結累計期間 （自　平成28年４月１日 至　平成28年６月30日）	当第１四半期連結累計期間 （自　平成29年４月１日 至　平成29年６月30日）
減価償却費	161百万円	141百万円
のれんの償却額	5	－

（株主資本等関係）

Ⅰ　前第１四半期連結累計期間（自　平成28年４月１日　至　平成28年６月30日）

配当に関する事項

配当金支払額

（決議）	株式の種類	配当金の総額 （百万円）	１株当たり配当額	基準日	効力発生日	配当の原資
平成28年６月29日 定時株主総会	普通株式	267	24円00銭	平成28年３月31日	平成28年６月30日	利益剰余金

Ⅱ　当第１四半期連結累計期間（自　平成29年４月１日　至　平成29年６月30日）

配当に関する事項

配当金支払額

（決議）	株式の種類	配当金の総額 （百万円）	１株当たり配当額	基準日	効力発生日	配当の原資
平成29年６月29日 定時株主総会	普通株式	267	24円00銭	平成29年３月31日	平成29年６月30日	利益剰余金

（セグメント情報等）

【セグメント情報】

Ⅰ　前第１四半期連結累計期間（自平成28年４月１日　至平成28年６月30日）

当社グループの報告セグメントは「宝飾品」及び「眼鏡」でありますが、「眼鏡」の全セグメントに占める割合が低く、セグメント情報に与える影響が軽微なための記載を省略しております。

Ⅱ　当第１四半期連結累計期間（自平成29年４月１日　至平成29年６月30日）

１．報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

	報告セグメント		合計	調整額（注）１	四半期連結財務諸表計上額　（注）２
	宝飾品	眼鏡			
売上高					
外部顧客への売上高	6,608	484	7,093	-	7,093
セグメント間の内部売上高又は振替高	-	-	-	-	-
計	6,608	484	7,093	-	7,093
セグメント利益又は損失（△）	△172	21	△151	5	△146

（注）１．セグメント利益又は損失（△）の調整額５百万円は、セグメント間取引消去であります。

２．セグメント利益又は損失（△）は、四半期連結財務諸表の営業損失（△）と調整を行っています。

２．報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

（固定資産に係る重要な減損損失）

「宝飾品」及び「眼鏡」セグメントにおいて、固定資産の減損損失を認識し、それぞれ、81百万円、14百万円を特別損失に計上しております。

（１株当たり情報）

１株当たり四半期純損失金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第１四半期連結累計期間（自　平成28年４月１日　至　平成28年６月30日）	当第１四半期連結累計期間（自　平成29年４月１日　至　平成29年６月30日）
１株当たり四半期純損失金額（△）	△45円15銭	△27円05銭
（算定上の基礎）		
親会社株主に帰属する四半期純損失金額（△）（百万円）	△503	△299
普通株主に帰属しない金額（百万円）	―	―
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純損失金額（△）（百万円）	△503	△299
普通株式の期中平均株式数（千株）	11,156	11,088

（注）潜在株式調整後１株当たり四半期純利益金額については、１株当たり四半期純損失金額であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

（重要な後発事象）

当社は、平成29年６月22日に、当社が平成29年６月20日に設立した子会社を承継会社（以下、「当社子会社」といいます。）、株式会社ヴィレッジヴァンガードコーポレーション（以下、「ヴィレッジヴァンガードコーポレーション」といいます。）を分割会社として、ヴィレッジヴァンガードコーポレーションの飲食店事業及び食品販売事業（以下、「対象事業」といいます。）を吸収分割（簡易吸収分割。以下、「本会社分割」といいます。）すること、また、分割後の対象事業に関して当社とヴィレッジヴァンガードコーポレーションが協調して運営にあたること等を内容とした契約（以下、「本契約」といいます。）を締結し、平成29年８月１日付で本会社分割を実施いたしました。また、同日、本契約に基づき、当社子会社の株式の10%をヴィレッジヴァンガードコーポレーションに譲渡いたしました。

１．会社分割の目的

当社は、試験的に開始した飲食関連事業への本格的進出を検討しており、そのための運営ノウハウの効率的獲得が課題でありました。一方、ヴィレッジヴァンガードコーポレーションは、経営効率の向上のため、経営資源を主たる事業である書店及びその関連事業に集中することを検討していたため、協議を重ねた結果、両社において経営上の課題の解消が見込まれることから、本会社分割を含む事業提携の内容に同意し、本会社分割の実施に至りました。

２．会社分割の要旨

（１）会社分割の日程

本契約締結の取締役会決議日（当社）	平成29年６月22日
吸収分割契約締結日	平成29年６月22日
吸収分割の効力発生日	平成29年８月１日
金銭による分割対価交付日	平成29年８月１日

（２）会社分割に係る割当の内容

当社子会社がヴィレッジヴァンガードに対し、承継する対象事業の資産、負債及び営業権の対価として650百万円を交付いたしました。

（３）分割会社の概要

名称	株式会社ヴィレッジヴァンガードコーポレーション
本店所在地	名古屋市名東区上社一丁目901番地
代表者	代表取締役社長　白川篤典
資本金	2,246百万円
事業内容	書籍・雑貨等の小売事業、飲食店事業及び食品販売事業

（４）承継会社（当社子会社）の概要

名称	ＡＥフードアンドダイナー株式会社 なお、平成29年８月１日付で、商号をヴィレッジヴァンガードプレース株式会社に変更いたしました。
本店所在地	東京都港区虎ノ門四丁目3番13号
代表者	代表取締役社長　川端良敬
資本金	10百万円
事業内容	飲食店事業及び食品販売事業

３．本契約に含む株主間契約の要旨

ヴィレッジヴァンガードコーポレーションは、本会社分割の効力発生日から一定期間において、当社に対し当社子会社株式の39%を譲受けることを請求できることとしております。

２【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成29年８月８日

Ａｓ-ｍｅエステール株式会社
取締役会　御中

爽監査法人

指定社員 業務執行社員	公認会計士	登　三樹夫	印
指定社員 業務執行社員	公認会計士	熊谷　輝美	印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の２第１項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているＡｓ-ｍｅエステール株式会社の平成29年４月１日から平成30年３月31日までの連結会計年度の第１四半期連結会計期間（平成29年４月１日から平成29年６月30日まで）及び第１四半期連結累計期間（平成29年４月１日から平成29年６月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、Ａｓ-ｍｅエステール株式会社及び連結子会社の平成29年６月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第１四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

強調事項

重要な後発事象に関する注記に記載されているとおり、平成29年６月20日に設立した子会社ヴィレッジヴァンガードプレース株式会社（旧社名　ＡＥフードアンドダイナー株式会社）は、株式会社ヴィレッジヴァンガードコーポレーションの飲食店事業及び食品販売事業を吸収分割の方法により承継し、分割後の対象事業に関してＡｓ-ｍｅエステール株式会社と株式会社ヴィレッジヴァンガードコーポレーションが協調して運営にあたること等を内容とした契約を平成29年６月22日付で締結し、平成29年８月１日付で本会社分割を実施している。

当該事項は、当監査法人の意見に影響を及ぼすものではない。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以　上

（注）１．上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

２．ＸＢＲＬデータは四半期レビューの対象には含まれていません。